

たまたま上京中に、店のお客さんのライブを観に行けることになった。ところが、某地下鉄の駅を出たとたん、東西南北がまったくわからない。土曜日の夜だったので、ビル街は真っ暗で、通行人もほとんどいない。都心だというのに、商店が少なく、したがって街全体が薄暗い。はて、こまった。行くべきホールの位置がわからない。

こんなことなら、ネットで地図を調べてプリントアウトしてくればよかったと悔やんだが、もうおそい。やっと 1 軒見つけたコンビニに入り、店員にきいても、埒が明かない。元気そうなグループが歩いてきたので、たぶんこの人たちも同じホールに行くのだと思うことにして、後をついていったら、高級うなぎやの暖簾をくぐってしまった。万事休す。真っ暗な都心にぽつんと置き去りにされた、携帯電話をもたない田舎人の悲劇。

さいわい時間的余裕だけはあったので、あっちの路地、こっちの路地を行き来していると、ビルの角にガードマンが立っていた。ああ、よかった、この人にきいてみようと思いつくと、れっきとした警官だった。

この若いおまわりさん、わたしより方向音痴で、お人好し。ちゃんとした地図のある交番に行きましようと言っておきながら、彼自身が迷ってしまった。あわてた彼は、車道を斜めに横切って、とちゅうで違法に気づいたのか、「あっ、横断歩道を渡るべきですね」と、すぐに歩道にもどったが、ますます混乱。1 人だった迷子が、2 人になっただけならまだしも、この間、彼が警備を留守にしたビルでなにか事件でも起きたら、えらいことだ。「自力でさがしますから、もう結構です。ありがとうございました」

運良く、次の交差点で本物のガードマンに道をおしえてもらい、わたしは無事にライブの開始時間に間に合ったのだが……。